

平成30年4月17日(火)

老球の細道406号

新年度スタート

会津バスケットボール協会 室井 富仁

明けない夜はない。厳寒の冬の後には穏やかな春がやって来る。今年も決まったように春が来て桜が咲いている。いつもと同じことの繰り返しであるが、今年の春はちょっと変化があった。孫二人が幼稚園に入園したのである。わが子が幼稚園に入学した頃とは違った感慨がある。なぜならば、我が家の孫娘の幼稚園送迎バスの送り迎えが私の日課の一つとなったからである。送る時、迎える時、いつもバス到着5分前には家の前に出て待つ。その時の時間の長いこと長いこと。送る時の寂しさ、迎える時の喜び、爺様の宿命か。

孫娘が3歳になり、バスケットボールに関心を示すことを期待してずっと待っていたが、残念ながら「アンパンマン」から「キュウーレンジャー」に移り、今ではディズニーアニメの「シンデレラ」「白雪姫」「アナと雪の女王」などにはまっている。魔法使いのマネばかりでボールなどまるで眼中になし。私はいつも食事中に魔法にかけられ、動けなくなることを強要される。夕食のビールもゆっくり飲めない。これも爺様の使命だと割り切り、かつてわが子の時に「育児なし」と非難された罪滅ぼしに爺様は荒野を目指す。

上の孫を幼稚園へ送り出し、毎日の午前中は寂しくなってしまったが、2番目の男孫が台頭してきた。歩けるようになったと思ったら、念願のボール遊びをする。まだ1歳であるが、私が「シュート！」と掛け声をかけると、スポルディング社のバスケットボールの形をした物入れに、孫娘のために購入したバスケットボール6号球を両手で持ちシュートをする。元首相小泉純一郎氏ではないが「感動した!」。しかも、テニスボール大の小さなゴムボールを握らせると左利きで投げる。もしかしてサウスポーか?左利きはえてしてボールスポーツでは「レフター」と言われ、シューターになりやすいパターンである。

世の中は甘くはないということは60年も生きていればいやと言うほど思い知らされてきた。孫息子は残念ながらホームでは縦横無尽に活動するのであるが、アウエイに弱い。家から1歩外に出ると一言も発しなくなる。初めての人に会うと人見知りして泣いてしまう。外に出て誰にでも声をかける孫娘とは同じ兄弟でもまるで違う。面白いものである。

先日、太陽光発電を販売するセールスマンが我が家に来た。私が玄関で対応したら、その若者は私に向かって「旦那様はいますか?」とのたもうた。目の前に立っているのに気がつかないのかと思ったが、セールスマンの話を聞くのも面倒だったので「私は旦那様ではなく爺様だ」と答えた。そしたらジョークが通じず帰ってしまった。時間をむだにすることなく良かったと思ったが、セールスマンには家の主人に見えず、隠居の爺様に見えたのだろうか。

「人は希望と共に若く、失望と共に老いる」(ウルマン)

82歳の脚本家倉本聡がサントリーの新聞広告で「60代の若者たちへ」という文章を書いていた。「この先をどう生きるか。しまっておいた夢を取り出してみないか」と。今年度も健康寿命が続く限り、バスケットボールのために尽力したい。そして夢である孫たちのバスケットボール日本代表実現に余生を費やしたい。夢は大きく、態度は謙虚に。一生学習、一生挑戦、一生謙虚、そして一生バスケットボール。先日、平成30年度会津バスケットボール協会総会、少人数の懇親会が終了した。いざ、新年度。